

笑顔がつくる、はつらつ島根。

とまちやん通い

角ともこ県議会レポート

2012.8 August vol.22

震災を乗り越え 復興に向かう人々

5月23日から25日の三日間、民
主県民クラブで、岩手・宮城県に
出かけ、震災の復興状況、ガレキ
の処理状況、女川原発の被災状況
などを調査しました。

本格的な復興はこれから

最初に向かった陸前高田市
は、津波で三千戸が全壊し、約二
千人の尊い命が奪われました。

市役所も外壁は残っています
が、中は流れ、今は仮店舗で業
務しています。私たちは、市議
会で、震災の状況、復興計画など
について伺いました。

市役所の職員も嘱託職員を
含め110人が亡くなられ、
今は他の自治体から51人の派遣
職員の協力を得て復興に取り
組んでいることを、自身も県か
らの派遣できているという松
田浩晃議会事務局長補佐から
聞きました。

千田勝治市議会副議長も被災
のこと、そして今復興に向けて
取り組んでいることを力強い決
意をこめて話されました。また、
15mの高さの防潮堤建設の話が

あるが、市民には異論があり、自
分はガレキで土手をつくり広葉
樹を植えたほうがいいと考えて
いると話されました。

このあと、一年前のボラン
ティア活動でテント設営地の提
供など大変お世話になった岡田
二郎さんのお宅に伺いました。

岡田さんご夫婦、それに近所の

人も集まり歓迎してくれました。
主に千田副議長さんも来られ、
当時の話やその後の話を聞きま
したが、お元気でお暮らしのよ
うで安心しました。当時避難し
ていた若い夫婦は娘さん一家
だったそうで、今は遠野市で元
気に暮らしておられるとのこと
でした。

庭でお話を聞きましたが、家
の周りはみどり豊かで、震災の
ことがうそのような感じでし
た。しかし、よく見ると、まだ津
波が押し寄せたりんご畑は空
いたままですし、田んぼも耕作
されていません。これから土の
入れ替えがあるということです
した。一年経っても、復興はな
かなか進んでいない状況です。

その後、気仙沼へ移動し、当日
の宿となる「若芽の宿」でお世話
を受けました。若芽の宿は、震災
で、震災の状況、復興計画など
について伺いました。

震災を教訓に備え

そこで、震災を教訓に備え、
その後、気仙沼へ移動し、当日
の宿となる「若芽の宿」でお世話

になることになりました。ここは
ボランティアの宿として、一人
暮らしの当主が、被災した自宅
を改修後、ボランティアの皆さん
に宿として提供しています。

夜に、当主と親戚の人や近所
の人たちと懇談しました。一般
の人たちが撮影した被災時の
ビデオを見ながら、当時の津波
の力がいかに凄かったか、そし
て津波の去った後の惨状を聞
きました。周りの住宅も改修し
て住んでいる所もあれば、その
ままになっているところ、建物
を撤去して空き地となってしま
るところなど、まだまだ震災の
爪跡が残っている状況です。近
くの小学校も廃校となり、校庭
には壊れた車が山積みになっ
ていました。

2日目は、津波と避難先の寒
さで入所者が犠牲となつた介
護老人保健施設「リバーサイド

春園」を訪問しました。今は5
月に開所した仮設の施設で事
業を行っていますが、仮設とい
ってもほとんど本来の施設
に近い設備です。仮設には助成
がない、本設の手続きなどは進
まず、すでに設計図はできてい
ますが着工に至っていません。

施設長の猪苗代盛光さんは、
個々の施設の備えだけでは難
しい今回の被災を教訓に、官民
の連携と避難場所の確保、避難
所での対応など、あらゆること
を想定した備えが必要だと話さ
れました。

続いて、雇用を通じた気仙沼

の復興事業に取り組む一般社団

法人「気仙沼復興協会」へ行き、

市議会議員の守屋寺武さんから

被災状況や復興に向けての取り

組みについてお話を伺いました。

法人を立ち上げ、市の委託を

受け清掃、写真救済、福祉、ボラ

ンティアの受け入れなどによる

復興事業に取り組んでいます。

6月16万3千t、それまでの石

巻市のごみ処理量の106年分

にあたる量の廃棄物が発生して

います。ただし、このうち海に流

れ出しているものもあり、陸上

にあるガレキは450万tもくら

いではないかということです。

現在仮設の焼却炉5基を建設し

ており、そのうちの1基が稼働

していました。すべてが動くと

1日1500tのガレキを処理

することができます。しかし、フ

ル稼働しても8年はかかり、25

年度末までにがれきを処理し復

興を進めたい地元の思いからす

ると時間要するものです。

ガレキ処理のために現地に

焼却場が設置できるほどの広

大な土地を確保することは容

易ではありません。少しでも早

くガレキ処理ができるよう支

援が必要です。

対応してくださった渡部所長

は、「原子力は扱い方を間違えば

大きな事故になる、今回の震災

の被災プランとして事業を伝

え、情報共有し原発にかかる

者が切磋琢磨して安全を守るこ

とに努める」ということを述べ

られました。ご自身は福島原発

事故の被災地である南相馬市に

家があり、帰えることができな

い状況にあります。

今回、被災地をめぐり、復興

に向けて努力されている皆さ

んの声を聞きました。しかし、

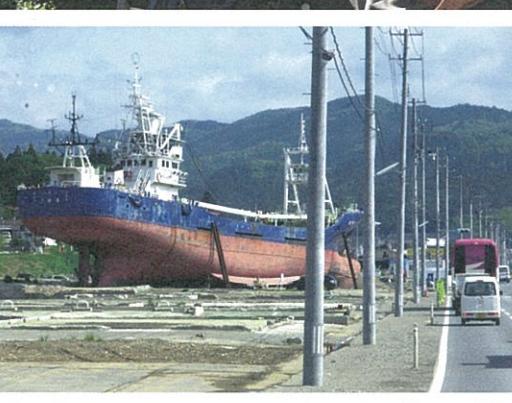
多くの時間と支援が必要です。

私たちも、震災のことを忘れる

ことなく自分たちのこととし

て、取組みを続けていきます。

岡田さん宅で被災の話を聞く(写真上)津波で陸上に押し上げられた船(写真中)気仙沼復興協会で守屋市議会議員から話を聞く(写真下)



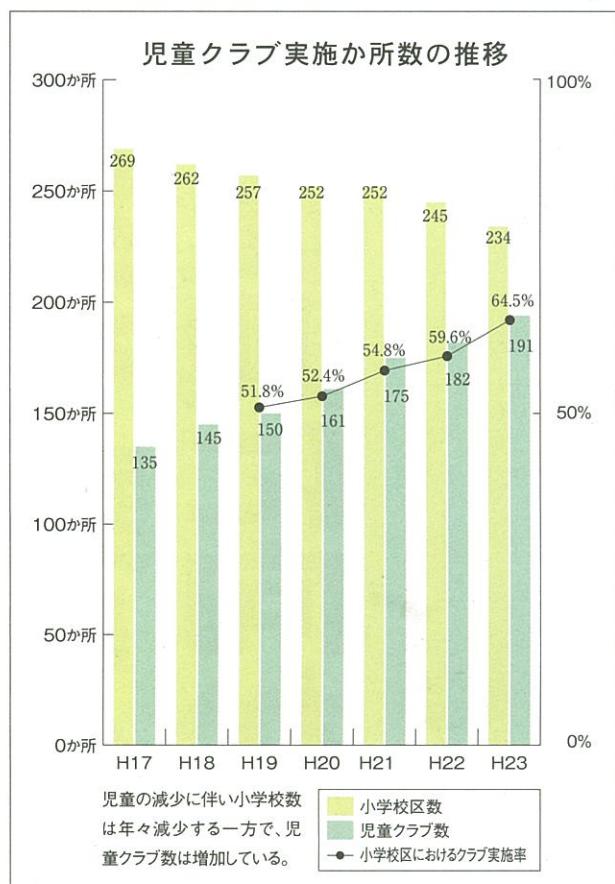
積み上げられたガレキの山の前で



ガレキを処理する仮設の焼却炉

発行者 角智子 〒690-0064 島根県松江市天神町132
TEL.(0852) 28-8880 FAX.(0852) 28-8881
E-mail sumi@tomachan.net
URL http://www.tomachan.net/

とまちゃん通信



●観光バリアフリーの取り組みについて検証する。この結果を踏まえて改善点を研究したい。

●福祉マップの改善に取り組む考え方いかが。

●保健福祉部長 今年度、NPO法人と一緒にやっていくやさしさについて検証しておきたい。

●児童クラブ実施か所数の推移について質問しました。

●児童の減少に伴い小学校数は年々減少する一方で、児童クラブ数は増加している。

●保健福祉部長 今、国では、子ども子育て新システムの中で指導員の待遇改善も検討されており、国の動向を注視していきたい。

●児童クラブ実施か所数の推移について質問しました。

●児童の減少に伴い小学校数は年々減少する一方で、児童クラブ数は増加している。

●保健福祉部長 今、国では、子ども子育て新システムの中で指導員の待遇改善も検討されており、国の動向を注視していきたい。

●児童の減少に伴い小学校数は年々減少する一方で、児童クラブ数は増加している。

●保健福祉部長 今、国では、子ども子育て新システムの中で指導員の待遇改善も検討されており、国の動向を注視していきたい。